

復興へのあゆみ vol.19

復興に向けて一。あゆみを進める人を紹介します。

困難を乗り越え、 産業を守る覚悟一。

平成30年7月豪雨により、(有)南四国ファームが運営する直売所は土砂や水が流れ込む被害を受けました。特に被害が大きかったのが、御殿内にあるきなはいや三万石です。

きなはいや三万石は、以前は観光物産センターとして観光客向けにおみやげ品などを多く扱っていました。その後、「地元生産者の産品が並び、地元の人たちが通う場所にしたいたい」との想いから、現在では直売所として業態を替え運営を続けます。ミカンや魚など地元でとれる品を取り扱い、野菜や肉、総菜など地元の人々がほしいものをそろえるこ

とで、地域の人が行き交う場所として親しまれています。

平成30年7月豪雨により、きなはいや三万石は店内が40〜50cm程度まで浸水しました。使っていた冷蔵設備が使用できなくなり、発災後1カ月は休業し片付けに追われたそうです。地域の人に親しまれていた場所の休業を受けて清家さんは、立ち止まって考える間もなく少しでも早い営業再開を目指し、無我夢中で土砂を掻き出したそうです。今では設備も復旧し、賑わいを取り戻しています。

災害復興掲示板

本庁 ☎24 - 1111

吉田支所 ☎52 - 1111

三間支所 ☎58 - 3311

津島支所 ☎32 - 2721

宇和海支所 ☎62 - 0311

※詳しくは、お問い合わせください。



生産者グループ (有)南四国ファーム
会長 清家 久万夫

profile

吉田町でミカンづくりに携わっていたが、生産だけではなく販売にも力を入れたいと1999年に会社を設立。かんきつや加工品などにも力を入れ、直売所の運営やインターネット販売などを展開している。

平成30年7月豪雨

「あのときの声、あのときの想い」募集

忘れないでほしい、覚えていてほしい、誰かに聞いてほしい、あのときの記憶を後世に届けられるように…。宇和島市災害記録誌に掲載する、皆さんの伝えたい声を140文字以内で募集します。

【内 容】平成30年7月豪雨で被災したときに、感じた想いや後世に伝えたいことなど

【対 象】本人もしくは身近な人が被災した人や平成30年7月豪雨により本市と関わりを持った人

【期 間】2月28日(日)まで

【応 募】市役所、各支所、吉田地区各公民館、吉田病院、吉田町図書館に備え付けのアンケート用紙に記入し回収ボックスに入れるか、Web専用フォームから申し込んでください。



あのかつてない大きな災害の経験は、私たちの忘れられない記憶として刻み付けられました。その記憶を後世へと伝え残し、未来に役立てられるように。皆さんの声をぜひお寄せください。

【問合先】佐川印刷(株)(平成30年7月豪雨 宇和島市災害記録誌制作業務受託事業者) ☎089-925-7206

宇和島みかんオンラインショップ

宇和島かんきつ食べ比べセット、せとか、甘平、ブラッドオレンジなどを販売しています。このサイトは、平成30年7月豪雨からの復興支援プロジェクトとして、フィリップモリスジャパン合同会社や(一社)RCFの支援で開設されJAえひめ南が運営しています。自宅で宇和島産のかんきつが楽しめます。ぜひご覧ください。



地元の人が欲しいものが並び直売所



駐車場に大量の土砂が流れ込んだ



水に浸かった店内

災害を経験して清家さんは、「ミカンの産地として、これまでさまざまな困難があったはず。先人たちはそれを乗り越え今に残してくれている。今回の災害を経験して、その責務について改めて重要性を感じた。豪雨災害による被害や、後継者不足の問題など課題は多いけれど、今の時代を担う人たちが協力してこの産業を守っていかなければいけない。これからもおいしいミカンを全国に売り続けたい」と話してくれました。